

復活節第4主日・母の日・(白)

主日礼拝

2025年5月11日 10時20分～

司式:

奏楽:

《神の招き》

前奏 『来ませ、聖霊の神よ』 A. アルムスドルフ
入堂行進(カーネーション奉献) 教会学校
招詞 サムエル記上12章7節
賛美歌 21-141

《神の言葉》

祈禱 聖霊の照らしを求める祈り
聖書 ネヘミヤ記2章1～18節 (旧約726頁)
ヨハネによる福音書11章17～27節 (新約185頁)
こども説教
交読詩編 詩編136編1～9節 (160頁)
賛美歌 21-452
説教 「死んでも生きる」 八木浩史牧師
祈禱
賛美歌 21-484

《感謝の応答》

信仰告白 使徒信条
献金
祈禱 献金当番
主の祈り (週報表紙、ホームページ掲載)

《派遣》

頌栄 545B
祝福
報告
後奏

礼拝当番: (役員:) 献金当番:
音響: 映像:

■■■ 調布教会は2026年度に創立80周年を迎えます! ■■■

「死んでも生きる」

『ネヘミヤ記』では、ネヘミヤがエルサレムの城壁を修復するために行った事業について記されています。バビロニア帝国を制服したペルシア帝国によって、バビロン捕囚から解放された後も、エルサレムの復興は進みませんでした。ペルシアの王アルタクセルクセスⅠ世の献酌官であったユダヤ人のネヘミヤは、思い切って王に、自分を故郷の復興のために派遣して欲しいと願い出ます。その願いが受け入れられて、ネヘミヤはユダ州の長官としてエルサレムに派遣されます。エルサレムに到着したネヘミヤは、まず現状を調べます。城壁は崩され、城門は消失したままであり、瓦礫の山が道を塞ぎ家畜が通る道さえなかったほどの有様で、まさに廢墟でした。しかしネヘミヤは、エルサレムの人々に城壁再建工事を呼びかけるのです。そうすればエルサレムは復興することができるのだと希望の道を示したのです。それは「神の恵み深い手が私の上にある」と、ネヘミヤが言っているように、信仰によって語られた言葉でした。

『ヨハネによる福音書』では、ラザロが死んで墓に葬られてから、すでに四日も経っていました。主イエスはマルタに「あなたの兄弟は復活する」と言われます。「終わりの日の復活の時に復活することは存じています」とマルタが言うと、主はさらにおっしゃいます。「私は復活であり、命である。私を信じる者は、死んでも生きる。生きていて私を信じる者は誰も、決して死ぬことはない。このことを信じるか」。主イエスはマルタに、ご自分こそが死んだ者を復活させる神であることを信じさせようとしておられるのです。この方を信じるなら、復活を目の当たりにすることができるのです。